



たいしも通信

シリーズ第16回目となる今回は、今更ながら(!?)日本海海戦についてです。日本海海戦については過去に拙稿でも何回か取り上げてきておりますが、今回は戦跡という観点から位置関係を中心に述べてゆきたいと思えます。

◆日本海海戦の概要

日露戦争中の1905年5月27～28日、東郷平八郎率いる日本連合艦隊と、その倍の戦力とされるロシアのバルチック艦隊との海戦で、連合艦隊は海戦史上希な一方的勝利を収め、これによりロシア側を講和の席に着かせることができました。

当時の日本は鎖国が解けてまだ50年。日本海海戦が海外に与えた影響は大きく、ほとんど無名のアジアの小国が列強ロシアに勝利したことは、世界中の人々を本当に驚愕させました。当時ヨーロッパの植民地だった多くの国々に独立の希望を与え、さらにはロシアの動きに戦々恐々としていた北欧でも高く評価され、アマリ(提督)ビールの中に、東郷元帥がラベルに描かれているものがありました(現在は別会社がラベルを継承)。米国の新聞社に至っては、こんなことがあるはずがなく、ロシアの水兵が反乱を起こして自滅したのだろう、という誤記事を發表したくらいです。

◆日本海海戦の場所

日本海海戦という名称は知っていても、どこか遠い北の海というイメージを持つ人が多いようですが、実際には対馬の東、沖ノ島(豊北町神田岬の西約70km)周辺になります。ここでウラジオストクを目標して南から対馬海峡を北東に抜けようとしたバルチック艦隊を、連合艦隊が迎え撃つ形となりました。結果、ロシアは大敗を期し、戦死者の遺体は九州だけでなく山口、島根、鳥取、北陸、東北までの日本海側に漂着し、日本人によって手厚く埋葬

されました。またロシアの敗残兵約30名が乗った救命艇が萩市須佐に、被弾したロシア艦艇が島根沖に漂着しています。最も近い福岡県福津市には日本海海戦記念碑があり、当初は日露戦争戦勝記念とする予定でしたが、東郷元帥が「国の尊い犠牲となられた両国軍人のことを思うと忍びない」と反対され、現在の名称になりました。

◆日本海海戦ゆかりの神社

●菅崎宮

福岡の菅崎宮では毎年5月27日にさつき大祭として「日本海海戦記念大会」の奉祝行事を行い、海戦における彼我戦没者をはじめ、海洋殉難者の慰霊式も併せて行っています。当日は佐世保地方総監が参列され、護衛艦も参加して洋上慰霊祭も執り行われています。

●東郷神社

東郷神社は東京の原宿が有名ですが、福岡県福津市にも東郷神社があり、東郷元帥ゆかりの有志が発起人となり日本海海戦記念碑の建立や東郷元帥の遺髪や記念品の陳列などが行われ、周辺は本人の承認を得て東郷公園と名付けられています。こちらでも当日は春の例祭が執り行われています。

▼編集後記▲▲

ここ数年、菅崎宮のさつき大祭に参列させていただいておりますが、洋上慰霊祭のために派遣されてくる護衛艦への乗艦とその前夜に行われる歓迎会が楽しみでなりません。ちなみに本年は潜水艦救難艦ちはやで見どころ満載でした。調整段階でもがみ型という話もあったようですが、最新艦としての話題性はあるものの、参列者に加えて音楽隊や儀仗隊も整列しての話題性はあるものを行うには、飛行甲板があっても少々手狭だったことでしょう。例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。